

にし
さばかりいどう
西の鯖街道

西の鯖街道
紹介ページへ



都の職と文化を支えた街道・・・西の鯖街道

標高800メートルの丹波高地を挟み、福井県高浜町からおおい町名田庄、南丹市美山町、京都市京北、京都御所を結ぶ約100キロメートルの街道。このルートは1900年代初頭に鉄道が敷設されるまで、福井県若狭地方と京都を結ぶ最短の文化・経済ルートで、若狭湾で水揚げした鯖などの海産物が人の背に担われ京に、京からは都の文化が運ばれました。

マップ番号 1



観る 夏

青葉山(若狭富士)を望む若狭湾

若狭湾のどこからでも望めるランドマークは、古歌にも詠われた。



活動・取り組みの紹介

若狭ふぐ、天然鮎、自然薯、鯖そばなど海山川里の美味しいものが揃う街道です。ドローン映像による街道の紹介、観光アプリ「ココシル西の鯖街道」の運用、西の鯖街道モニターツアー等を展開しています。

● お問い合わせ先
西の鯖街道協議会
福井県大飯郡高浜町宮崎 77-1-8 (JR 若狭高浜駅構内)
若狭高浜観光協会
TEL : 0770-72-0338 FAX : 0770-72-0774



西の鯖街道
公式サイト



西の鯖街道
観光情報サイト



西の鯖街道のドローン映像はこちらから
<https://www.youtube.com/channel/UCI6OnXQloDZOAEsmREqkDeg>

マップ番号 2 観る 春



出逢い桜

桜の下に集う人の縁を結ぶと言われる「出逢い桜」。府下最大級の枝振りを誇る。

マップ番号 3 観る 春



魚が渦吊り橋の桜
(京都市京北町)

京北桜百選のひとつ、袂にしだれ桜が咲く木造の吊り橋は絶景の撮影スポット。

マップ番号 4 観る 夏



日本の滝100選
'野鹿(のか)の滝'

落差30mの水量豊富で、勇壮かつ迫力満点の野鹿(のか)の滝。その昔、戦に敗れて落ち延びようとした安倍家の別当石王丸が、滝壺から光を放つ薬師如来像に逃げ道を教示されたという不思議な伝説が残されている。

マップ番号 5 観る 夏



日引の棚田(高浜町)

「日本の夕日百選」にも選ばれている棚田で、奥に広がる内浦漁港との四季折々の景観が楽しめる。

マップ番号 6 観る 夏



魚が渦吊り橋の桜
(京都市京北町)

室町時代に築城されたといわれる城山城跡にある城山公園。名勝「明鏡洞」は、八穴の奇勝の一つ。城山城跡から望む夕日は「日本の夕日百選」にも選ばれている。

マップ番号 7 観る



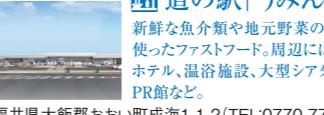
日本の滝100選
'野鹿(のか)の滝'

落差30mの水量豊富で、勇壮かつ迫力満点の野鹿(のか)の滝。その昔、戦に敗れて落ち延びようとした安倍家の別当石王丸が、滝壺から光を放つ薬師如来像に逃げ道を教示されたという不思議な伝説が残されている。

道の駅「うみんぴあ大飯」

新鮮な魚介類や地元野菜の販売、地元食材を使ったファストフード。周辺には県立の児童館やホテル、温泉施設、大型シアターが人気の関電PR館など。

福井県大飯郡おおい町成海1-1-2 (TEL:0770-77-4600)



道の駅「美山ふれあい広場」

特産品は地鶏・地玉子・美山牛乳・味噌・コンニャク・鮎・鮎露煮・米・ブルーベリーなど。春・夏・秋には道の駅内で祭りを開催。

京都府南丹市美山町安掛下23番地 (TEL:0771-75-0190)

道の駅「シーサイド高浜」

「若狭高浜タマ地ものん」お土産コーナーに、若狭湾青ヶ入江を眺望できるレストラン、光明石天然鉱石の人工温泉が人気の理由。

福井県大飯郡高浜町下車持46-10 (TEL:0770-72-6666)

道の駅「ウッディー京北」

店内は樹齢約600年、周囲5.1メートルのやぐら杉が香りを放つ。地場産の新鮮野菜や納豆もちなどの地元オリジナル加工食品や木工品が人気。

京都府京都市右京区京北周山町上寺田1-1 (TEL:075-852-1700)

マップ番号 8 食す 冬



若狭ふぐ

高浜町では3~5月に定置網で漁獲したたらふぐを蓄養・養殖している。

マップ番号 9 食す 冬



わらづと納豆・納豆餅

京北は納豆発祥の地。お正月には雑煮ではなく納豆餅を食べる習慣がある。

マップ番号 10 食す 冬



自然薯(じねんじょ)

糖度・粘り・色ともに福井県内最高と評価される。



きのこの森(おおい町)

特産品のきのこをモチーフにしたテーマパーク。シンボルのきのこタワーは高さ30m。全長460mのビッグスライダーや人工芝のソリ用ゲレンデ、きのこのものしり館や陶芸館、芝生広場など子供が大満足の遊具が充実。また、チームラボプロデュースの「お絵かきタウン」や「小人が住むテーブル」も体験できる。



美山かやぶきの里・北村

当集落は中世には丹波国弓削郷に属し、林業を主産業とする山村集落であった。集落の中を通る街道は、いわゆる鯖街道の一つとされ、京都と若狭の中間地であり、多くの旅人が行きました。そういった背景から、この集落の建築や生活様式はいろいろな地方の影響を受けたといわれる。北村は近世には篠山藩に属し、隣の村とともに「知井9か村」と称された。



古老の語り部

昔話や暮らしの話を伝統的民家でじっくり聞く。